

保存版

家庭学習の手引き

～自ら学ぶ習慣を身につけるために～



帯広市立大空小学校

1 「家庭学習の手引き」についての考え方

小学校の学習は、児童が将来社会生活を営む上で、自立していくための基礎となる大切なものです。学校においても、学習内容が定着するよう日々の授業の充実を中心に努力していますが、家庭と連携し、家庭における学ぶ習慣を身につけることで、より確かに定着するのではないかと考えます。そこで、本手引きを作成・配布することとしました。

保護者の皆様には、お子さんと一緒にご覧いただき、各家庭の事情や子どもの実態に合わせ、家での約束を家族で話し合いながら活用していただければと思います。

2 「家庭学習の手引き」を通して育てたい大空っ子の姿

家庭学習の習慣や方法を身につけた児童

基礎的・基本的な
学習内容を理解し
ている児童



基本的な生活習慣
や生活時間の有効
な使い方を身につ
けた児童

<大空小児童の家庭での様子は？>

全国学力・学習状況調査の結果から、全道・全国と比較して気になった点は、

- 平日にテレビやビデオを視る時間が長い
- 平日にテレビゲームをする時間が長い
- 平日にインターネットをする時間が長い

という児童が多かったことです。逆に、「早寝・早起き・朝ご飯」の生活習慣については、比較的良い結果が出ています。

3 これだけはできるようにさせたい基礎的な学力

- 教科書に載っている程度の文章をすらすら読めること
- 教科書に出ている漢字を読んだり書いたりすること
- 算数の教科書に出ている程度の算数の問題を解くこと



現在の学年で、確実にできるようにしておくことが大切です！

家庭学習のしかた

やくそく

- ①毎日、自分が決めた時間に机に向かいましょう
- ②テレビや音楽は消しましょう
- ③宿題があるときは、まず宿題から始めましょう
- ④机の上には学習に関係するものだけのせましょう
- ⑤終わったら、次の日の学習の準備をしましょう

時間のめやす

☆家の人と話し合って決めましょう！

学 年	時 間
1 年	1 5 分以上
2 年	2 0 分以上
3 年	3 0 分以上
4 年	4 0 分以上
5 年	5 0 分以上
6 年	6 0 分以上



ご家族の方へ

- ◇自分の部屋で一人で机に向かうより、リビング等で保護者の方がそばにいる方が、安心して勉強できるという報告もあります。常につきっきりの必要はありません。家事をしながらときどき声をかけたり、音読を聞いてあげることで、子どものはげみになります。(特に低学年のお子さん)
- ◇予定していた学習が終わったら、「がんばったね」とほめてあげてください。
- ◇時々、宿題、家庭学習、ノートや筆箱の中身も見せてあげてください。
- ◇外で元気に遊んだり友だちとの交流も大切なことです。ですから、学校から帰ってすぐに勉強するというのにこだわりません。大切なのは、本人が一番集中できる時間帯に学習を行うことです。

<おうちの人といっしょによみましょう>

1・2年生へのアドバイス



基本的な学習習慣を身につけよう!

<家庭学習を始める前に>

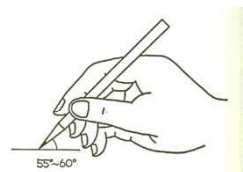
- ◇学校からのプリント類を一緒に確かめてください。
- ◇今日の宿題を一緒に確かめてください。
- ◇学習に必要な用具がそろっているか、確かめてください。

<家庭学習の内容>

国語

【音読】(声を出して読みましょう)

- 今勉強しているところを、1回以上読みます。
- はっきりとした声で、すらすら読めるようにしましょう。
- 「、」や「。」に気をつけて読みましょう。
- 練習したら、お家の人に聞いてもらいましょう。



【文字の練習】

- 正しい鉛筆の持ち方を練習しましょう。
- 1年生は、習ったひらがなやカタカナを、お手本の字の形をよく見て、ていねいに練習しましょう。
- 習った漢字を、筆順に気をつけて練習しましょう。

算数

【1年生】

- 10までの数を書く練習をしましょう。
- たし算やひき算の練習をしましょう。(ノート、ドリル、プリントなどで)
- まちがえた問題はもう一度やりましょう。

【2年生】

- たし算やひき算のひっ算の練習をしましょう。
- 九九の暗唱ができるように練習しましょう。
- まちがえた問題はもう一度やりましょう。



<家庭学習が終わったら>

- ◇時間割を確かめ、明日の準備をしましょう。(鉛筆はけずれてるかな?)

3・4年生へのアドバイス



自分から机に向かう習慣を身につけよう！

<家庭学習を始める前に>

- ◇学校からのプリント類・テストをお家の人に見せましょう。
- ◇今日の宿題を自分で確かめましょう。
- ◇学習前に、勉強する場所をかたづけましょう。
- ◇テレビやゲーム・音楽などは消しましょう。

<家庭学習の内容>

国語

【音読】（声を出して読みましょう）

- 今勉強しているところを、何回読むか自分で決めて読みます。
- 漢字を正しく、「」の部分は気持ちを込めて読めるようにしましょう。
- 練習したら、お家の人に聞いてもらいましょう。

【漢字の練習】

- 習った漢字を、「とめ」「はね」「はらい」に注意してノートに練習しましょう。
- 漢字一つだけ書くのではなく、「じゅく語」で書いてみましょう。

【その他】

- 国語辞典を使って、意味の分からない言葉を調べてみましょう。

算数

- その日に勉強したところの問題を、教科書やドリルでといてみましょう。
- かけ算やわり算・四則計算は、ドリルなどを使いくり返し練習しましょう。
- 自分で答え合わせもしましょう。

理社

- その日に勉強したところのふり返りを別のノートに書いてみましょう。

<家庭学習が終わったら>

- ◇時間割を確かめ、明日の準備をしましょう。（鉛筆を削る、定規やコンパスなど明日使うものを用意する。）
- ◇机の上をかたづけましょう。



5・6年生へのアドバイス



自分で計画を立てて
学習を進めてみよう！

<家庭学習を始める前に>

- ◇学校からのプリント類・テストをお家の人に見せましょう。
- ◇今日の宿題を自分で確かめましょう。
- ◇テレビやゲーム・音楽などは消しましょう。
- ◇何をどこまでやるか、自分で計画を立てましょう。



<家庭学習の内容>

国語

【音読】（声を出して読みましょう）

- 今勉強しているところを、何回読むか自分で決めて読みます。
- 長い文章でも、正確にすらすら読めるまで練習しましょう。
- 詩や俳句・短歌などを、暗唱したり朗読してみましょう。

【漢字の練習】

- 習った漢字を、へんやつくりなどを意識してていねいにノートに練習しましょう。
- 習った漢字を用い、熟語や短文を作ってみましょう。
- 新しく習った漢字だけでなく、今まで習った漢字も少しずつ練習しましょう。

【その他】

- 国語辞典や漢字辞典の使い方になれるよう手元におき、調べる習慣をつけましょう。
- 自分で持っているドリルなどがあれば、取り組んでみましょう。
- 新聞の短い記事をノートに正確に書き写してみましょう。

算数

- その日に勉強したところの問題を、教科書やドリルでもう一度といてみましょう。
- 小数・分数の計算は、ドリルなどを使いくり返し練習しましょう。
- 教科書にのっている公式やまとめはしっかり覚えましょう。
- テストなどで間違えた問題は、問題と答えをノートに写してみましょう。

理社

- その日に勉強したところのまとめを別のノートに書いてみましょう。

<家庭学習が終わったら>

- ◇時間割を確かめ、明日の準備をしましょう。（鉛筆を削る、定規やコンパスなど明日使うものを用意する。）
- ◇机の上をかたづけましょう。

1～6年生へのアドバイス



しゅくだい
宿題や国語・算数の
べんきょう
勉強が終わったら…

しゅくだい お
宿題は終わりましたか？国語や算数の基^きそとなる勉強^{べんきょう}も済^すみましたか？
それでは、こんなことにも取り組んでみましょう！

読書

- 物語^{ものがたり}をはじめ、いろいろな種類^{しゅるい}の本を読んでみましょう。
- 土曜日や日曜日に時間をかけて読書するのもいいですね。
- 低学年^{ていがくねん}であれば、お家^{いえ}の人が読み聞かせ^{いっしょ}したり一緒に読書の時間を持つことで、本が好きになります。
- 高学年で弟妹がいる人は、読み聞かせをしてあげましょう。



作文・詩

- テーマ^{てま}を決めて作文^{ぶん}を書いたり、読書感想文^{かんそうぶん}を書くことも勉強^{べんきょう}になります。
- 学校^{がっこう}で習^{なら}ったことを参考^{さんこう}に、詩^しを書いてみましょう。(サイロに応募^{おうぼ}しよう)

楽しみながら覚えよう

- ことわざ、四字じゅく語、百人一首、慣用句、有名な文学作品の一部
 - 地図記号^{ちずきごう}、都道府県名^{とどうふけん}、山地や川・海の名前、日本の地方名
 - 大陸名・海洋名、世界の国名、歴史上の有名な人物、歴史上の主な出来事
 - 植物のつくり、こん虫のからだのつくり、人のからだのつくり
 - ローマ字で教科書の一文をへんかん
- ※他にもいろいろあるね。自分が興味^{きょうみ}を持ったら、調べてみよう！

ノートの取り方

ノートを見たら、その子の学力がわかるとされています。
友だちや先生に見てもらってもわかるように書くのが大切です。



- きれいにすばやく書く。
- 日付^{ひつけ}を入れ、1日1ページまたは2ページずつ使^{つか}う。
(スペースにゆとりを持って使うことが大切です。)
- 線を引くときは定規^{じょうぎ}を使^{つか}う。
- 矢印^{やじるし}や色えんぴつ(2～3色程度)を上手^{ていど}に使^{つか}う。
- ちょうどよい濃^こさのえんぴつ^{つか}を使う。

けいぞくは力なり！

わずかな時間でも毎日続けることが、家庭学習の習慣化につながります。



平成26年4月発行